

## 家族に支えられて

村上市立岩船中学校三年 須貝 七海

家族に「行ってきます」と言えるのも、ご飯を食べることができるのも、今日一日を安全に生きていられるのも、これが最後と思って生きなさい。

これは、今年の四月、修学旅行で関西に行き、京都の建仁寺で座禅体験をしたとき、住職の方がおっしゃったことばです。

このことばを聞いて、私の頭に真っ先に浮かんだのは、家族の顔でした。

私には、十二歳年の離れた妹がいます。私が中学生になった頃、妹は、ことばを話せるようになりました。そして、ちょうどその頃から、よくけんかをするようになりました。私が学校から帰ってきて、疲れているときに、妹がうるさくしていると、つい腹が立ってしまい、きつくしかってしまいます。母に、「あなたは中学生でしょう。小さい子に言い過ぎじゃない？」と言われ、自分でも言い過ぎたなと思っても、一度爆発した気持ちをこらえきれず、家族に当たってしまいます。

私は、このときの自分がたまらなく嫌いでした。後悔の気持ちでいっぱいになります。これが私の一番の悩みでした。

そんなときに聞いたのが、修学旅行での建仁寺の住職の方のことばだったのです。その方は、このようなこともおっしゃいました。

東日本大震災のとき、被災された方たちは、自分の家が津波に流されること、朝、家族と食べた食事が最後の食事になること、そして、何より、朝、家族の顔を見たのが最後になるとは、誰も思わなかったはずでした。

私は、もし、家族と普通に一日を過ごせるのが、今日が最後だったら。もし、明日、突然、家族が姿を消してしまったら、………と思うと、いてもたってもいられませんでした。ちょうど、家族と離れ京都にいるという現実が、不安な思いを大きくさせ、私の目には涙があふれていました。

私がいざというとき、家族と一緒に喜んでくれます。悩んでいるとき、相談にのってくれます。家族は私にとって一番身近で大切な存在です。家族がいてくれたから、いつも私を支えてくれたから、苦しいことも悲しいことも乗り越えることができたのです。

私は、今まで、家族が近くにいることを、支えてくれていることを、当たり前だと思っていました。だから、何か嫌なことがあると、すぐ、家族や周りの人に不満をぶつけていました。しかし、自分が当たり前だと思っていることは、実はそうではないことを教えてもらいました。今は、家族と一緒に話をしていることが貴重なことに思えます。

修学旅行から帰ると、妹は、以前と同じようにうるさくして、私が嫌な思いになることばを言うてきました。そのとき、私は、建仁寺で聞いたあのことばを、心の中で何回も唱えました。そして、「妹が生まれてきてくれたから、今のにぎやかな家族になったのだ」という気持ちを持ちました。見方を変えてみると、今までと違った接し方ができました。

私は、これから、普段、当たり前だと思っていることも、当たり前ではないのだと思っていきたいと思います。また、こうして普通に生きていくことを、ありがたいと思って、感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。そして、自分は家族に支えられていること、

家族の存在のありがたさやかけがえのなさを忘れずに生きていこうと思います。時にはぶつかることがあっても、支え合うことで家族の絆は深まると思います。私は、私の家族が大好きです。